

看護の立場から適切な放射線治療提供体制を検討 (専従・有資格看護師の意義と職務)

研究分担者 荒尾晴恵¹⁾
 研究協力者 山本瀬奈¹⁾、青木美和¹⁾、藤本美生²⁾
 林みずほ³⁾

1) 大阪大学 2) 兵庫県立がんセンター 3) 大阪大学医学部附属病院

1. 今後の予定

1. 今後3年間の研究計画

がん診療連携拠点施設を中心とした専従または有資格看護師の意義とあるべき職務についての提言作成

【R5,6年度】有資格者の放射線外来配置による効果の可視化
(診療録の分析、患者や治療経験者の評価等)

~~【R5年度】評価指標の検討、診療録の分析ができる施設の交渉~~

【R7年度】
データ分析
提言作成

R5年度

- 諸外国の基準を参考にした苦痛緩和に必要な専門的な看護師数の算出

R6年度

- 放射線治療を受けた患者の症状や苦痛の実態調査(後方視的調査)
- 緩和ケアチームのコンサルテーションを受けた放射線治療中の患者の事例分析とケアの抽出(後方視的調査)

3. 論文・成果発表

論文

青木美和, 藤本美生, 山本瀬奈, 荒尾晴恵. がん放射線療法看護認定看護師の役割活動と配置状況および活動時間の関連. 日本放射線看護学会誌 (採択)

4. その他

・ Ayako Okuyama, Yukie Takemura, Minako Sasaki, Atsushi Goto. Certified nurse specialists in cancer nursing and prophylactic antiemetic prescription for chemotherapy patients. Support Care Cancer 30(7) 5931-5937 2022

・ 山中政子, 鈴木久美, がん疼痛のある外来患者に対するオピオイド鎮痛薬の服薬指導および看護ケアの実態調査
がん診療連携拠点病院と一般病院の比較. 日本看護研究学会雑誌. 45 (2) . 339-348. 2022.

目的:がん疼痛のある外来患者に対するオピオイド鎮痛薬の服薬指導および看護ケアの実態調査を行い,がん拠点病院と一般病院の差異を明らかにする。方法:外来看護師に対するインターネットによるアンケート調査。結果:回答者の所属はがん拠点病院145名,一般病院236名。オピオイド鎮痛薬初回導入の頻度($p<.001$),処方医師からの服薬指導依頼の頻度($p<.001$),横断的活動を行う看護師の数($p<.001$)はがん拠点病院と一般病院で有意差があった。がん疼痛のある外来患者への看護ケアは全ての項目で有意差があった。結論:オピオイド鎮痛薬を初回導入された外来患者への服薬指導やがん疼痛看護ケアは,がん拠点病院が一般病院より実施している可能性が示された。外来でのがん疼痛看護ケアにおいては,がん疼痛看護ケアにおける困り事を相談できる支援と教育体制の整備,多職種連携の整備が課題と考える。